

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立金指小学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・委員それぞれの人脈を生かしながら、その輪をさらに広くしていき、地域の人たちを巻き込んで取り組んでいくなど、“仲間を増やす”という点で、何ができるかを考えていく。
- ・普段の学校教育活動（例えば技能教科やクラブ活動、地域学習など）でも、地域の人たち（保護者も含めて）と協働できることを模索する。
- ・「学校と地域」の結びつきの一步とし、地域の組織・団体・ボランティアを最大限に活用する。地域住民に対して、委員が直接情報発信することを考える。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・学校教育目標や学校運営方針について、内容の理解や共有に努めることができた。特に、学校運営の重点のひとつでもある「地域の『ひと・もの・こと』を授業や学校行事に積極的に活用する。」ことに関わることについて、これまでにない意見が聞かれ、前向きな議論ができたと感じる。
- ・教育目標や運営の方針について理解を深めることができたが、各学年において、どのような活動内容が適しているかなど議論を深めることは難しかった。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・地域の「ひと・もの・こと」を授業や学校行事に活用するために各学年の要望に沿った人材等の提供（情報）ができていた。特色ある学校づくりを目指すポイントワークに向けて、これまでのものを踏まえ、積極的に議論された。
- ・コロナ禍後、年度を通して様々な活動が復活してきた。ここ数年の学習活動での豊富な景観を生かしつつ、教育活動をさらに充実したものにすべく、学校支援活動が活発なものになることを望む機運があり、熟議につながっている。本年度委員には、地域情報に精通した方が多く、多角的な議論ができた。
- ・学校支援活動で欠かせない活動テーマごとをフォローする地域人材情報が進んだが、人材の方々に対する協議会としての活動方針の理解、実施後の活動精査が十分できていないことを今後の課題と考え、学校側の負担軽減に少しでも改善できる取組が課題と考える。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・CSだより、地域だより、学校だより（さかみち）等、定期的な情報発信はできている。ただ、これらも文書面を中心として、どうしても学校側からの発信のみという形になってしまいがちである。そこで、地域側として、自治会、シニアクラブ、地域安全の組織、さらにPTAなど、こちら側からの発信も必要ではないかと考える。
- ・運営協議会としての情報は個々に発信されているが、組織化されていないので地域住民にはなかなか浸透されない。情報発信は大切であり、組織的に発信する体制づくりが必要と考える。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・学校運営の基本方針に沿い、学校と地域との連携をさらに積極的に進めていく。委員においても、その人脈、委員の技量、情報などを活かした教育活動への支援を、自分事としてもう少しきめ細かく模索していく。情報発信においても、学校と連携しながら、委員側、各組織側からの情報発信も検討し、協力を依頼していく。
- ・委員のそれぞれの人脈を生かしながら進める点ではなんとかできたと思われるが、人脈の輪をもっと広げて、「仲間を増やす」ということをどのようにしたらできるかを考えたい。地域の人たちを巻き込み、協力を得るためにも、「仲間を増やす」という点に注力し、ボランティア活動を運営する組織の立ち上げの実現に向けて検討したり、コミュニティ・スクールの活動について、もっと地域や保護者に知ってもらうため、小学校に直接かわりのない方々にも熟議の内容に応じてオブザーバーとして熟議に参加していただく場を設けたりする。